

平成18年に設立されたこめ・こめ・くらぶは、福林地区を中心に、今では約20ヘクタールの農地を管理しています。

「福林地区に荒廃地を作らないようにと地区のみんなが話し合ったんですが、なかなかまとまらず、有志5人で資金を出し合い農事組合法人を立ち上げました。」

こう話してくれたのは岩尾喜一郎さん(写真右上)。少人数で始めたために資本金が少なく、経営が軌道に乗るまでが大変だったと当時を振り返ります。

2年前前から積立金ができ、年間を通しての雇用に踏み切りました。米や麦などの作物は年間を通して栽培することができないため、農閑期も変わらず賃金を支払うことは容易ではありません。適地適作を徹底することによる収穫量アップや、農閑期にはシイタケを栽培するなどして経営の安定に取り組んでいます。「以前は会社で働いていましたが、私は農業の方に魅力を感じました。自分たちが育てた作物でみんなが喜んでくれるのにやりがいを感じます。」



と話す佐藤幸生さん(33)(写真左上)は、見習い期間を経て平成25年4月から正式に雇用されました。家の手伝いで農業をしていたところ、こめ・こめ・くらぶを知ったといいます。こうした後継者育成の取り組みが評価され、昨年度には大分県農業賞【集落営農・むらづくり部門】で最優

秀賞を受賞しました。「今後も後継者育成に力を入れていきたいです。若い力がこれからのこめ・こめ・くらぶを担ってくれると思います。ずっと農業を続けてほしいですね。」と岩尾さん。今年から保険制度を取り入れるなど、ますます雇用環境作りにも力を入れています。

File.1 農事組合法人 **こめ・こめ・くらぶ**

「真心のこもった農作業」を心掛けています

◀農作業の一部を請け負うことも。「真心のこもった農作業」をモットーとした丁寧な作業は、依頼者からも評判です。



地域づくりに女性の知恵と技を



▲現在、地粉・うどん・やせうま・そうめん(期間限定)を市内5か所で発売中。

平成25年に創立されました。「これまで組合では農作物の生産ばかりをしていたんですが、それだけでは曲がり角で：いいものを作っても米や麦は安いですから。自分たちで売れるものを作っていきたい。」今は加工を外部の工場に頼んでいますが、将来的には組合で加工所・販売所を設立する計画もあります。年末には正月用の餅の契約販売も行いました。

「朝の暗いうちから準備をして、一日中餅つきをしました。子どもや留学生も交じって、100人ぐらいで。全部杵つきですから大変でした。」

こうして作られた餅は好評で、今後も続けていくとのこと。他にも収穫祭を催すなど、農業を通じて地域のコミュニケーションの場も生み出しています。

これからの目標は加工・販売環境の整備、新しい商品の開発、更には女性部の独立など盛りだくさんです。「どうせやるなら楽しみながらやろうと思っています。」と、明るい声が響きます。

File.2 農事組合法人 **新庄農地利用組合**

【問い合わせ】0978-62-6171



黒いラベルには『しんじょう村の小麦で作りました。』の文字、中の乾麺には少し歪みがあります。「天日干しをすると、完全にまっすぐにするのは難しく、食品添加物も使用せず、こだわって作っています。もちろん原料の小麦も安全・安心をモットーに栽培したものです。」

自信をもって商品を紹介してくれたのは、新庄農地利用組合の理事を務める工藤笑子さん(写真中央)。県下でも営農組合で活躍する女性はまだ少ない中、新庄農地利用組合には現在女性の理事が3人います。「最初に理事の話をいただいたときは戸惑いました。じわじわとその気にさせられた感じです。(笑)」

「製品化に関わることで、農業に関心が強くなりましたね。作物の育成状態が気になったり。」

こう話す工藤さんたちがまとめる女性部は、新庄の特産物を活用し6次産業化を図るために、

